



ゾーン名 1.【天竜川・駒ヶ根ゾーン】 (伊那峡～中田切川合流点)

1-1 ゾーンの特徴

- ・ 人目に触れ易く、人が近づきやすい場所です。
- ・ 河道内に樹木が目立つ箇所があります。
- ・ 必要な治水対策はほぼ完成しています。
- ・ 吉瀬ダムの下流側は、水量が少ない区間となっています。
- ・ 「水辺の楽校」「かっぱ資料館」等、川とかかわりある施設が存在しています。

1-2 整備・保全・利用の方針

1. 天竜川とふれあうために、水辺に近づくための施設を整備をしていきます。
2. 護岸ができていない場所の環境を少しでも良くする工夫をします。
3. 魚の遡上しやすい環境を整えます。
4. 地域と天竜川のかかわりを知り、後世に伝えます。
5. 洪水や氾濫の心配がほとんどない川を維持していきます。

1-3 具体的な方策として

- ・ 水辺に近づくためのポケットパークの整備
- ・ 「水辺の楽校」や「かっぱ資料館」、「丸塚公園」のさらなる利活用を図る。
- ・ 堤防の覆土、樹木の適切な伐採、流量の確保、ゴミの除去を行い、景観の配慮に努める。
- ・ 治水面に支障をきたさないことを前提に、在来樹木の伐採を行わず、昆虫や動植物を保護する。
- ・ 吉瀬ダムと大久保ダムでは、魚道の工夫や流量確保の工夫を行い、魚が容易に遡上できるようにする。
- ・ 河道内の障害物(樹木、ゴミ等)を取り除いて疎通能力を高める。治水施設の維持管理を強化する。
- ・ 塩田川下流の堤防護岸(左岸)を環境面・利用面にも配慮した方法で早期に完成させる。
- ・ 遊水機能を持つ霞堤の役割を再認識し、土地利用規制が必要
などが考えられます。

ゾーン名 2.【天竜川・中川ゾーン】 (中田切川合流点～小沢川合流点)

2-1 ゾーンの特徴

- ・ 河川沿いの土地を有効利用するために伝統的な治水工法が用いられています。
- ・ 手を加えずに残してほしい自然環境も多くある場所です。
- ・ 本川は、河床低下により、整備が必要な箇所もあります。
- ・ 理兵衛堤防、ヤナ場など、川とのかかわりの歴史を知ることのできる施設があります。

2-2 整備・保全・利用の方針

1. 知恵と工夫を生かして洪水被害を最小限にしていきます。
2. 安定した河床維持をしていきます。
3. 護岸は、周囲の景観と調和するような工夫をしていきます。
4. 堤防やヤナなどの歴史遺産を大切に、後世に伝えます。
5. 暴れ天竜を治めるために多大な苦勞をしてきた結果、今日の天竜川の姿があることを知らせます。
6. 在来の動植物を大切に保全します。

2-3 具体的な方策として

- ・ ハザードマップを作成するなどソフト対策も検討する。
- ・ 小和田の三面張り堤防の扱いについて検討する。
- ・ 天の中川橋の下流に床止めを設けるなどして、河床の低下を防止する。
- ・ ヤナ場は昔からの漁法を知る場として整備し、レクリエーション機能を充実させる
- ・ 理兵衛堤防は、移転するなどして保存・整備し、子供たちが先人の苦勞と天竜川の歴史を学ぶことができるようにする。
- ・ 霞堤、遊水池、理兵衛堤防、ヤナ場、自然林の存在と役割を人々に紹介したり、学校教育に取り入れる機会を設ける。
- ・ 現在ある自然環境と景観を保全するために、必要最低限の手入れだけを行う。
- ・ 小和田の三面張り堤防は、覆土や籠マット等を施して景観に配慮する。
などが考えられます。

ゾーン名 3.【田切ゾーン】 (太田切川、中田切川、与田切川)

3-1 ゾーンの特徴

- ・ 急流で巨石が目立つ河川です。出水時には土石流が懸念されます。
- ・ 巨石と周辺の林とが作り出す景観が良い場所です。
- ・ 各田切は、それぞれの特徴を持ち、異なった整備がされています。
- ・ 周辺の林を生かしてキャンプ場が多数整備されています。
- ・ 代掻き期等には流量が減少します。

3-2 整備・保全・利用の方針

1. 土石流による災害を未然に防ぐ努力を継続していきます。
2. 川の中の巨岩・巨石や周辺の林が作り出す景観を保全します。
3. 川に水を取り戻します。
4. これ以上自然が破壊されないようなキャンプ場や釣り場の利用を心がけます。
5. アルプスが作り出した田切地形のなりたちを学び、私達がどのような地形上で生活しているのか認識します。